

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	編輯室より
Author(s)	田代, 四郎
Citation	龍南, 192: 53-53
Issue date	1924-12-24
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8777
Right	

編輯室より

田代 四郎

▲例年懸賞文號の次の雜誌は振はない。懸賞文號に勢力を集中するためであらう。
▲どうも毎號同じ執筆者ばかりでも面白くない。本號は此の點に於て少々趣を異にする。

▲何度も云ふやうだが、龍南人の「龍南」は出來得る限り解放しなくちや嘘だ。

▲戸外では霞が降つて居る。酒でも飲みたい夜だが、例のサボタージュ病が此の四五日再發して事務遲滞、ために深更迄原稿紙と校正刷との睨み合ひ。誰だ、子孫八代迄雜誌部委員になす勿れ」等と弱音を吐く奴は？之で一仕事終へて一寸一服やる時の愉快さは分るまい。ウイスキーの瓶でも側にあつた日には、エヘン。……

▲年末なので印刷屋多忙のためとかその他色々の事情から、二三の方の玉稿を割愛しなければなりません。取急ぎのため、複雑した印刷を御希望された方の

原稿に見苦しいミスプリントでも出來たらとの老婆心から出たので、多分次號へ御廻し下さるでせう。

▲長々御世話になりましたが、愈々此のベシ先に含まれてゐるインキの盡くると共に「龍南」と御別れせねばなりません。さらば。健在にあられんことを！

—— 霞の夜午前一時擱筆 ——